



特集 高齢者排尿障害のアセスメントと対処 ～適切な排尿ケアの普及・啓発のために～

転倒と排尿障害

平松知子
金沢医科大学 看護学部 老年看護学 教授

正源寺美穂
金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 高齢者リハビリテーション看護学 助教

Point

- ▶ 排泄に関連した転倒の特徴を挙げられる
- ▶ 転倒予防に関連した排尿障害の対処について説明できる
- ▶ 安全な排泄動作について説明できる
- ▶ 排泄動作に関連した環境整備について説明できる

はじめに

高齢者の転倒事例の多くが排泄動作に関連し、転倒する高齢者の多くが排尿障害を有することから、転倒と排尿障害の関連が指摘されています。

高齢者における転倒と排尿障害の関係について説明し、次に排尿障害と排泄動作の観点から転倒予防策について解説します。

排泄に関連した転倒場面と転倒者の概要

病院・施設の転倒は、排泄に関連した動作時に発生することが多いといわれています。また、夜間の転倒について、夜間頻尿や睡眠障害が関係していると考えられています。

筆者たちが行った転倒調査^{1,2)}では、排泄に関連した転倒は、一般病棟の71.7%、回復期リハビリテーション病棟(以下、リハ病棟)の37.8%、療養型病棟・老健施設の39.3%を占めていました。こ

こでは、排泄に関連した転倒場面と転倒者の概要を述べます。

排泄に関連した転倒場面 (表1)

排泄に関連した転倒は、約80%が病室で発生しており、そのほとんどがベッドサイドでした。病室以外の転倒場所はトイレや廊下であり、病室→トイレ間の移動を含めた排泄前中後すべての動作時に転倒が発生していました。また、転倒発生時

間は、18時から6時の夜間帯が約60%を占めており、夜間頻尿と転倒の関係が示唆されました。

排泄に関連した転倒者の排尿障害と排泄状況 (表2・表3)

排泄に関連した転倒者の平均年齢は75歳以上でした。転倒者の約80%に排尿障害を認め、その多くは複数の障害を持っていました(表2)。排尿障害の種類は多様であり、機能的尿失禁が最も多く、次いで切迫性尿失禁でした(表3)。移動レベルは、杖など補助具を用いた歩行または車椅子であり、約80%はトイレまたはポータブルトイレを使用していました(表2)。排泄場所は、昼夜で変わる場合があります(表2)、日中トイレから夜間ポータブルトイレ、日中ポータブルトイレから夜間床上(おむつ)など、いずれも夜間の排泄場所はベッドサイドに近くなっていました。なお、昼夜で排泄場所が異なる場合の転倒発生時間は、夜間帯が多数を占めていました。

以上から、排泄に関連した転倒のリスクとして、「夜間頻尿、切迫性尿失禁などの排尿障害」と「排泄に関連した不安定な動作」が考えられます。

次に、それぞれに対応した転倒予防策について述べます。

表1 排泄に関連した転倒場面の状況

		全体 (n = 144)	一般病棟 (n = 28)	回復期リハビリテーション病棟 (n = 17)	療養型病棟・老健施設 (n = 99)
転倒発生場所	ベッドサイド・病室	113 (78.5)	23 (82.2)	12 (70.6)	78 (78.8)
	トイレ	18 (12.5)	2 (7.1)	4 (23.5)	12 (12.1)
	廊下・その他	13 (9.0)	3 (10.7)	1 (5.9)	9 (9.1)
転倒発生時間	0～6時	53 (36.8)	8 (23.6)	5 (29.4)	40 (40.4)
	6～12時	29 (20.1)	3 (10.7)	6 (35.3)	20 (20.2)
	12～18時	23 (16.0)	9 (32.1)	1 (5.9)	13 (13.1)
	18～24時	39 (27.1)	8 (23.6)	5 (29.4)	26 (26.3)
転倒時の行動	トイレに向かう途中	93 (64.6)	17 (60.7)	11 (64.7)	65 (65.7)
	排泄中	33 (22.9)	4 (14.3)	2 (11.8)	27 (27.3)
	ベッドに戻る途中・他	18 (12.5)	7 (25.0)	4 (23.5)	7 (7.1)

表2 排泄に関連した転倒者の排尿障害と排泄状況

		全体 (n = 104)	一般病棟 (n = 26)	回復期リハビリテーション病棟 (n = 12)	療養型病棟・老健施設 (n = 66)
平均年齢 (歳)	—	81.4 ± 7.4	76.3 ± 4.9	82.2 ± 9.0	
調査期間中の転倒回数	1回	82 (78.8)	24 (92.0)	9 (75.0)	49 (74.2)
	2回以上	22 (21.2)	2 (8.0)	3 (25.0)	17 (25.8)
排尿障害の有無	あり	83 (79.8)	21 (80.8)	9 (75.0)	53 (80.3)
	なし	21 (20.2)	5 (19.2)	3 (25.0)	13 (19.7)
おむつ使用の有無	あり	80 (76.9)	19 (73.1)	11 (91.7)	50 (75.8)
	なし	24 (23.1)	7 (26.9)	1 (8.3)	16 (24.2)
移動レベル	歩行	56 (54.8)	12 (46.0)	3 (25.0)	41 (62.1)
	車椅子自立	25 (24.0)	1 (4.0)	2 (17.0)	22 (33.3)
	車椅子介助	22 (21.2)	12 (46.0)	7 (58.0)	3 (4.5)
日中の排泄場所	トイレ	47 (45.2)	9 (34.6)	12 (100)	26 (39.4)
	ポータブルトイレ	36 (34.6)	11 (42.3)	0	25 (37.9)
	尿器・床上	21 (20.2)	6 (23.0)	0	15 (22.7)
夜間の排泄場所	日中と同じ場所	63 (60.6)	21 (80.8)	3 (25.0)	39 (59.1)
	日中と異なる場所	41 (39.4)	5 (19.2)	9 (75.0)	27 (40.9)

表3 排泄に関連した転倒者の排尿障害の種類と数

		全体 (n = 83)	一般病棟 (n = 21)	回復期リハビリテーション病棟 (n = 9)	療養型病棟・老健施設 (n = 53)
排尿障害の種類 (複数回答)	機能的尿失禁	65 (78.3)	18 (85.7)	8 (88.8)	39 (73.6)
	切迫性尿失禁	43 (51.8)	7 (33.3)	6 (66.7)	30 (56.6)
	腹圧性尿失禁	27 (32.5)	6 (28.6)	3 (33.3)	18 (34.0)
	溢流性尿失禁	27 (32.5)	8 (38.1)	5 (55.6)	14 (26.4)
	尿排出障害	27 (32.5)	5 (23.8)	5 (55.6)	17 (32.1)
排尿障害の数	1種類	26 (31.3)	6 (28.6)	2 (16.7)	18 (34.0)
	2種類以上	57 (68.7)	15 (71.4)	7 (83.3)	35 (66.0)